

# はしもと 維新八策と橋下ハシズムの台頭！

資料室報No.105

2012・4・20

## 竜馬の登場？

まるで竜馬（註一）でもあるかのように、<sup>せんちゅうはちさく</sup>船中八策（註二）ならぬ「維新八策」などを大々的に掲げ出したのが橋下<sup>はしもと</sup>大阪市長である。

すなわち、現在の日本を再生するには大改革（グレートリセット）が必要であるとして橋下市長は竜馬の「船中八策」にあやかって「維新八策」とか「日本改革」などと盛んに打ち出している。

いうまでもなく彼は大阪市長であると同時に自らが<sup>しゅき</sup>主宰する「大阪維新の会」の会長でもある。

関西、とりわけ大阪を中心とする彼の人気は相当なレベルである。

実際に2011年4月の統一地方選挙に際しては、大阪府知事・同市長選のダブル選挙で、なんと知事を辞任して大阪市長選に立候補し、知事選には同じ維新の会の松井幹事長が立候補し、いずれも当選を果たしているのだ、

このダブル選挙の勝利だけではなく、維新の会は大阪府議会選挙では民主、自民既成政党候補を押しつけて単独で過半数を占め、また大阪市会でも第一党となっているのである。

こうして橋下の率いる「維新の会」は、この地方選での圧勝によって、今度は次期衆院選に焦点を合わせて維新の会として独自に三桁の候補者を擁立せんとしている。

「維新の会」はいまや民主党や自民党などの既成政党に真っ向から選挙戦を挑む意気込みである。

実際に2月には、橋下政治塾が開かれ、ここには国会議員をはじめ中央省庁の官僚などを含めて全国から三千余名が参加しているのだ。かくして次期衆院選には「維新の会」メンバーが大量に立候補する状況となっている。

さて衆院選に臨<sup>のぞ</sup>もうとしている「維新の会」としてのマニフェストと言えるのが「維新八策」である。まだたたき台であるとしているが、既成政党のようなマニフェストではなく、竜馬の「船中八策」になぞらえて「維新八策」として、これを打ち出そうとしているが、まずはそれを見ておこう。

## 閉塞状況を突破

現在日本は経済的にも政治的にも閉塞状況にある。  
とくに経済的な閉塞状況については、すでに「失われた 20 年」などと称されて久しい。  
「失われた 20 年」とは、日本の経済がかのバブル崩壊以降、経済成長率がマイナスを記録してしまっただけの年数を含めると、平均で 1.1% 台に低迷したまま 20 余年を経過している状態である。

かかる低成長を打開するための施策によって、国家財政の赤字は膨張し続けて、累積した赤字額はなんと、自国の GDP の 2 年以上に相当する、1000 兆円を超えてしまっている程である。

しかもデフレ状態が長期化し、更には EU などの通貨不安によって、一部の国を除いて世界市場は冷え切り、日本の輸出産業、とりわけ電機産業などは際立った打撃を受けて、その打開策としてのリストラが一段と横行している状態にある。

他方、政治面では「コンクリートから人間中心へ」をかかげて、長き自民党政権支配を退けて登場した民主党であるが、いまや掲げていた「マニフェスト」などもかなぐり捨てて、ただ政権の維持のみに懸命となっている。

そればかりではない。民主党野田政権は「社会保障と一体化」などと主張しつつ、消費税の大幅 UP をなりふり構わず強行せんとしている。

消費税の大幅値上げという大衆収奪を実現するために、自民党に哀願してその UP を図るべく懸命となっているのである。

最早、民主も自民も、同じ穴の<sup>むじな</sup>貉であると言わなくてはならない。

私たちがこのような状況を見て考える事は、為政者たちが日本の閉塞状況の打開をかかげる時のやり方・方法について、歴史的にも学んで反対しなくてはならないためである。

すなわち閉塞状況にある政治面、その土台としての経済面・財政面の総てのしわ寄せが働く者に課せられるからだ！

消費税の大幅な値上げなどはその典型でもあるのだ。私たちが更に注意しなくてはならないことは、橋下維新の会が掲げる「維新八策」などからも、その危険性を感知しなくてはならないと言う事である。「ハシズム」とはファシズムについて、橋下市長の<sup>げんじ</sup>言辞からそれを感じているからである。

## ハシズムとは

では「橋下維新の会会長」の危険性について述べておこう。  
一番恐ろしいと感じるのは、本年 2 月大阪市における「労使関係に関する職員アンケート調査」の実施である。

このアンケートは単なるアンケートではない。それは市の職員約 3 万 4 千人の組合活動について、徹底的に調査して市における組合活動の実態を調査すべく行われたものであった。

すなわち橋下市長は、大阪市の職員に対して業務命令をもって記入させ、更には「正確

に記入しない場合は処分の対象とする」として、反対を押し切って実施したのである。

結果的には大阪府労働委員会が「不当労働行為のおそれがある」と指摘したことから、橋下市長はアンケートについて回収、データの破棄を行ったのであった。

このように労働組合に対して、まるで思想調査を思わせるような行為は断じて看過出来るものではない。まさに労働組合に対する敵愾心<sup>てきがいしん</sup>に満ちた行為であり、このような者が例え「維新」とか「改革」を語ろうとも絶対に信じる事は出来ないのである。

あるいはこんな言辞もある。昨年暮れの大阪市議会における施政方針演説で「…ギリシヤを見て下さい。公務員の組合がのさばると国が破綻してしまう」（11年12月市議会）と言うような価値観しか持ち合わせていない人物なのである。

そればかりではない！大阪市の職員が組織している組合について、なんと市庁舎内からの退去を求めているのである。

また、日の丸・君が代についても、教育委員会などを通じて指導を徹底させると共に、教師が国家を斉唱<sup>せいしょう</sup>しているかどうか、口元を監視することを賛美してやまない人物なのである。

「中央政権をぶっ壊さなきゃ駄目だ！」と言う石原都知事などとも共通点があり、実際にも会談しているようである。

橋下大阪市長にせよ、石原都知事にせよ、共通して感じることは、確かに世の中に生じている問題について、時には鋭く指摘してあたかも悪を叩くかのように振舞うことがある。

しかし注意すべきは、閉塞の時代と言われる中であって、一番苦吟<sup>くぎん</sup>している人々（多くは労働者）のために彼らはそれを述べているのでは決してない。

とりわけ橋下市長などは、消費税UPや原発再稼働について、極めて明快に否定はしている。だがしかし消費税UPや原発再稼働に反対であるならば、労働組合に対して敵対しないはずである。石原都知事の場合も東電の値上げ問題について真っ向から反対し東電に対して厳しい態度を取ってはいる。

だが彼等の場合は、閉塞状況にある日本を打開するために、いまの政府や経営者の対応について厳しく糾すのであるが、この事が苦吟している多くの国民の気持ちにフィットしてしまい、思わず橋下や石原を支持してしまう仮称が作られるのである。

実際に橋下市長は「私は選挙で選ばれた者であり、私の感覚が府民の感覚だと理解していただきたい」（08・12大阪府部長会議）などと述べているのである。

彼は知事選や市長選で得た当選から、自分の感覚は選んだ府民の感覚であるとして、自らが思い描く大阪府を大阪都にする構想に膨らむのである。それは大阪都の実現をあたかも日本の再建とダブらせていることが最大の特徴である。

この構想を実現するためには、国会で法律を変えなくてはならない。そのために民主党や自民党に働きかけて同時に「維新の会」を立ち上げ、これを母体として国政に乗り出す決意なのである。

## 「維新の会」の立ち上げ

この動向について時系列で示せば、およそ以下のようである。

- 08・1 大阪府知事選に立候補、当選
- 10・4 大阪「維新の会」設立、代表に。
- 11・4 統一地方選、大阪府議選で「維新の会」単独過半数獲得。市議選でも第一党に
- 11・11 知事をやめて任期満了に伴う大阪市長選に出馬して当選。同時に行われた大阪府知事選でも「維新の会」松井幹事長が当選。橋下市長「大阪府都構想」実現に向けて国政選挙に候補者擁立について言及。
- 12・2 次期衆院選の公約となる「維新八策」のたたき台を公表。
  - ・次期衆院選で公明党が立候補する関西の6選挙区について調整し出さない。
  - ・次期衆院選の候補者養成を目的とする「維新政治塾」に3326人が応募。

以上のような流れとなっている。

この間、橋下市長はたびたび上京して、民主党前原政調会長やあるいは自民党幹部、先に述べた石原都知事などと会談を重ねているようである。

さしせまる衆院選を前にして、これまでまったく実績の無い「維新の会」が、今や台風の目のような存在になりつつある。

冷え切った国民にとっては、民主党に強い幻滅感こそあれ期待感などはまったく無い。だがこのさめた国民の視線を掻き集めようとしているのが橋下市長らの「維新の会」なのである。

大阪市長が中央政党を相手に渡り合っている姿を見るにつけ、橋下の率いる「維新の会」は相当の感触を持っているに違いないと思うのである。

実際にそれを裏付けるデータがある。共同通信が2月に実施した世論調査では「維新の会」の国政進出に61%が期待感を示しているという。こうした感触が橋下市長の自信を裏付けているのであろう。

## そのブレーンたち

「維新の会」のブレーンであり大阪府市特別顧問に就任しているのが元経済企画庁長官である堺屋太一氏（註一3）である。

彼は次のように述べている。「大阪都構想は平成維新の尖兵で、日本を改めるモデルケース」であると彼の著書で述べている。（「体制維新一大阪都」2012・3 文春新書）さらに「過去20年間、日本は経済・文化・技術・社会倫理、など総ての面で下り坂である」として「この下り坂の続く日本を救う道はただ一つ、体制を変えることであり」さらに「日本国全体

を変えるためには地方から先例を作ることが必要である」その一つの試みが橋下のいう「大阪都構想」と言うわけである。(引用は同書)

「維新の会」には、堺屋をはじめ上山信一慶応教授、古賀茂明元経産省官僚などや、特別顧問には中田前横浜市長など五十数名がブレーンとして名を連ねている。

## 船中八策とは

さて「船中八策」について触れておかななくてはならない。

幕末に終止符を打ち、倒幕後の日本を構想して竜馬が残した「船中八策」とは、大政奉還、上下議会の設置、すべて公儀に基づいた政治、優れた人材の登用、新しい憲法の制定、外国との平等な条約、など目を見張るような近代国家の骨格について述べている。

彼は経済面でも価格や金・銀の交換比率にも触れているのである。現在で言う為替レートであろうか。

このような竜馬の「政策」にあやかってブレーン達は「維新八策」を起草して、日本をグレートリセットしたあとの構想を巡らしているわけである。

維新の会が示す「維新八策」とはたたき台とされているが大枠は

- ・ 統治形態の作り直し 道洲制の導入、首相公選
- ・ 財政・行政改革 議員定数の削減、公務員の削減
- ・ 社会保障 現行制度をリセットして考える
- ・ 憲法改正 改正要件の 96 条について、改正に必要な三分の二を二分の一に変える。

などを考えているようである。

要はこれまでの社会システムをリセットして再構築するというのが彼等の主張である。

また、「維新八策」の目標は、民主主義について「決定し責任を負う」とか「自立する個人・地域・国家」などと言う面が強調されているのである。

## おわりに

橋下の維新の会は、日本の経済的な混迷・停滞状況を打開することのであるが、その場合、政治・行政面の歪みや閉塞性がますます強まるに従って必然的に増幅する国民のストレスを巧みに利用しようとしている。

そのために「船中八策」とか「維新八策」を持ち出して国民の目を集中させようとしているようである。

そうした意味では、かの第二次大戦前の世界的な大恐慌の中で登場したドイツのヒトラーや、あるいは日本では東条内閣の独裁的政治の下で遂行された戦争に際して、米英から日本を守れ！というような疎外形態に日本人を駆り立てて、無謀な戦争を遂行したのであるが、ヒトラーも東条も、彼らを多くの国民が圧倒的に支持をしていた事を忘れてはならないのだ。このような連中が登場した時代と社会的な雰囲気似たような状況となっ

ているのではないか?と思うのである。

いま日本は失業と不況、それに加えて大震災の復興や原発事故による深刻な放射能の恐怖にさらされている。まさに主客両面から生活が脅かされているのである。

私たちはかつての小泉自民党内閣の時代の前、小泉が「自民党などぶっ壊す」と言って登場した際、多くの国民が思わず「溜飲が下がる」ように感じたのであるが、かれが新自由主義的政策を進める際に言い放った「抵抗勢力」という言葉や、自衛隊の海外派兵を行った際に感じたことを「ファシズム」を一里塚とするなら、橋下市長らが進める新しい流れも多くの国民がそれを支持しているという意味で極めて危険であり、これに同調しようとする流れは明らかに「ファシズム」への二里塚・三里塚を意味すると言わなくてはならないだろう。

## 註

### 註一1 竜馬

幕末の志士、土佐藩の郷士で土佐勤王党加盟。脱藩後江戸に出て勝海舟などに学び、長崎に商社を設立。(後の海援隊)西郷隆盛や小松帯刀、木戸らと薩長連合を形成して、大政奉還に尽力。京都の近江屋にて同志の中岡慎太郎と共に暗殺された。(1835~1867)

### 註一2 船中八策

1867年(慶応3年)竜馬が起草した8ヶ条の国家構想。幕政返上、議会開設など公儀政治論に基づいている。前土佐藩主山内容堂に建白のために上京する船中で書かれたので、この名がある。

### 註一3 堺屋太一

大阪生まれ、東大経済学部卒通産省。70年の万博を企画し78年退官した。87年7月から2000年12月まで経済企画庁長官。